

持続可能な大和バスを
実現するために



【目次】

- 大和バスの歴史
- 市の基本的な考え方
- 令和8年度の目標数値について
- 令和11年度の運行方針（案）について

【目次】

- 大和バスの歴史
- 市の基本的な考え方
- 令和8年度の目標数値について
- 令和11年度の運行方針（案）について

大和バスの歴史 ①

- 昭和58年：市民病院が中央町から東畦野に移転。それに伴い
市民病院のアクセスを向上させるためにスタート。

※市が赤字補填を行うために補助金を出す唯一の路線

- 平成13年：大和地区へ延伸

- 平成20年～：大和地区では利用者増加に向けた様々な取組を実施

⇒地域イベントでの無料乗車券配布、「大和バスだより」の発行、
ポスターの掲示、hanica出張販売など

- 平成31年2月：赤字が拡大しているため、阪急バス社から市に対し
「補助路線再編に係る要望書」が提出される。

大和バスの歴史 ②（令和2年～）

- 令和2年4月：緊急事態宣言（R2年4月～5月21日）
- 令和2年10月：市・地元・阪急バス間で補助路線の持続可能な運行の検討を開始
- 令和5年10月：利用者増加に向けて地元発意のルート変更を実施
- 令和6年3月：予測した目標数値に達しなかったため減便を地交会議で提案し了承を得る。（大和団地線（平日）38便⇒30便）
- 令和6年6月：『大和循環バス平日38便運行維持に関する請願書』が市議会に受理・採択される。
- 令和6年7月：請願書の採択と補正予算に対する付帯決議を受け、地交会議へ報告。当初の考えに変更がないことを確認。
- 令和6年10月：大和団地線 平日30便の運行開始

【目次】

- 大和バスの歴史
- 市の基本的な考え方
- 令和8年度の目標数値について
- 令和11年度の運行方針（案）について

市の基本的な考え方

- 1 . 大和バスは大和住民の生活にとって重要なインフラの1つであり、市は継続的に支援を行う
- 2 . 「住民生活」と「バス事業」と「市の財政」それぞれの持続可能性を配慮したバス路線とする
- 3 . 持続可能なバス路線にするために、住民、事業者、市はそれぞれ連携・協力をする。

持続可能なバス運行を実現するために

- 1 . 市は令和8年度～10年度の運行のため、
予算1,500万円/年の補助金（3年分）を確保

⇒12月議会の議決済

- 2 . 地域住民はバスのルートを検討や利用促進の取組み
など主体的に乗客数増の取組みを行う

⇒地域内でワークショップなどを開催し、持続可能なバス運行に向けた新たな利用促進策を検討中。

- 3 . 持続可能なバス運行のため、地域住民、交通事業者、
学識経験者、市等で協議の場を設置する

⇒協議の場として、牧の台地域協働交通検討部会を設置

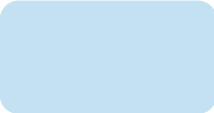
※今年度は、ワークショップ1回・連絡会4回開催

牧の台地域協働交通検討部会について

地域のみなさまと、学識者・交通事業者・行政職員などの

関係者間で連携し、移動課題の解決に向けた意見交換などを行う場。

※部会のイメージ

 = 牧の台地域協働交通検討部会

タウンミーティング
開催

ワークショップ
開催

交通に関する勉強会
開催

【連絡会】

部会で出た意見を集約

※連絡会の構成メンバー

①地交会議の委員

学識者・市・交通事業者・市民代表など

②大和地域の代表者

コミの会長・自治会長など

川西市

地域公共交通会議

連絡会で集約した

地域意見を踏まえ協議

※地交会議の委員メンバー

①学識者

②国・県・市の職員

③交通事業者

④警察

⑤市民の代表など

これまでの協議内容について

- 令和7年6月3日 牧の台地域協働交通検討部会連絡会を開催
(令和7年度第1回) ⇒会長の選任・部会設置の目的や進め方、バス運行継続のための目標数値などについて協議
- 令和7年7月15日 牧の台地域協働交通検討部会連絡会を開催
(令和7年度第2回) ⇒バス運行にかかる経費や目標数値、ワークショップなどについて協議
- 令和7年9月5日 【ワークショップの開催】
⇒『大和バスの利用促進について』というトークテーマでワークショップを開催。バス利用者を維持・増加させるため、地域住民同士で意見交換を実施。
- 令和7年9月17日 牧の台地域協働交通検討部会連絡会を開催
(令和7年度第3回) ⇒ワークショップでの意見のとりまとめや、利用促進に向けた実施計画について協議
- 令和8年1月15日 牧の台地域協働交通検討部会連絡会を開催
(令和7年度第4回) ⇒12月議会で議会の承認を得た上で、バス運行方針(案)や、地域主体で実施する『実施計画』について協議をおこなった。

【目次】

- 大和バスの歴史
- 市の基本的な考え方
- 令和8年度の目標数値について
- 令和11年度の運行方針（案）について

目標数値の考え方

バス運行にかかる年間の必要経費を算出し、持続可能な運行に必要な収入金額から（目標）実利用者数を算出する。

※イメージ図



（目標）実利用者数の計算方法

①ICカードの実タッチ数

⇒交通系ICカードの実際のタッチ数

（PiTaPa・ICOCA・hanicaなど）

②現金利用者の推計

⇒現金収入÷1名あたりの単価

$$\text{①} + \text{②} = \text{実利用者数}$$

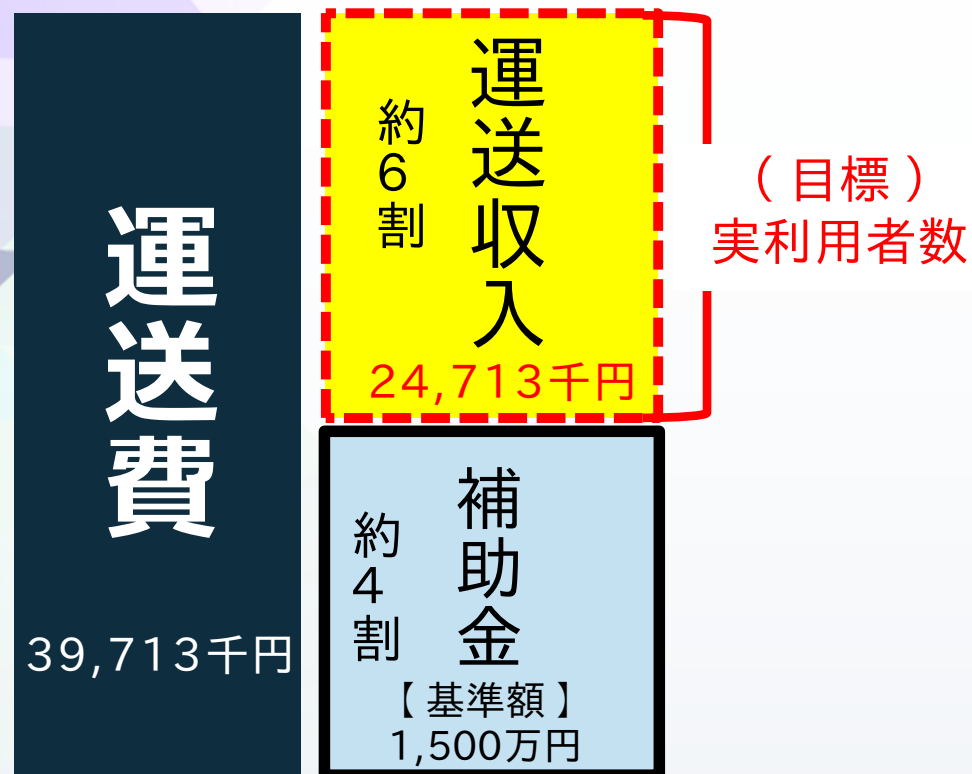
※（目標）実利用者数は毎年度見直し、設定する。

令和8年度（目標）実利用者数

・令和8年度 収支予算

$$\left(\begin{array}{c} \text{経費合計} \\ 39,713 \text{千円} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{補助金} \\ 15,000 \text{千円} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{必要な収入} \\ 24,713 \text{千円} \end{array} \right)$$

※イメージ図



令和8年度（目標）実利用者数

115,000人

（参考）

R6.10～R7.9月までの実利用者数の実績

120,224人

【目次】

- 大和バスの歴史
- 市の基本的な考え方
- 令和8年度の目標数値について
- 令和11年度の運行方針（案）について

令和11年度のバス運行方針（案）

- ・ 令和8年度～令和10年度の3年間は**現在の運行を継続**。

【大和団地線】平日30便

この3年間の（目標）実利用者数の達成状況や社会情勢などを踏まえて、
令和11年度以降のバス運行を決定することとしたい。

（バス運行方針決定のルール）

- ・ **2年連続目標達成**すれば、現在のバス運行を維持する。
- ・ **2年連続目標未達成**であれば、現在のバス運行を見直す

※2年間で目標達成など判断ができない場合

2年連続目標達成、または未達成になるまでバス運行を延長する。

★1年間毎の延長（翌年度分の債務負担を上程）★

2年連続目標達成した場合

令和8年度

令和9年度

令和10年度

令和11年度

・現在のバス運行維持
【大和団地線】平日30便

・現在のバス運行維持
【大和団地線】平日30便

R8年度～R10年度は現在のバス運行を継続

令和8年度

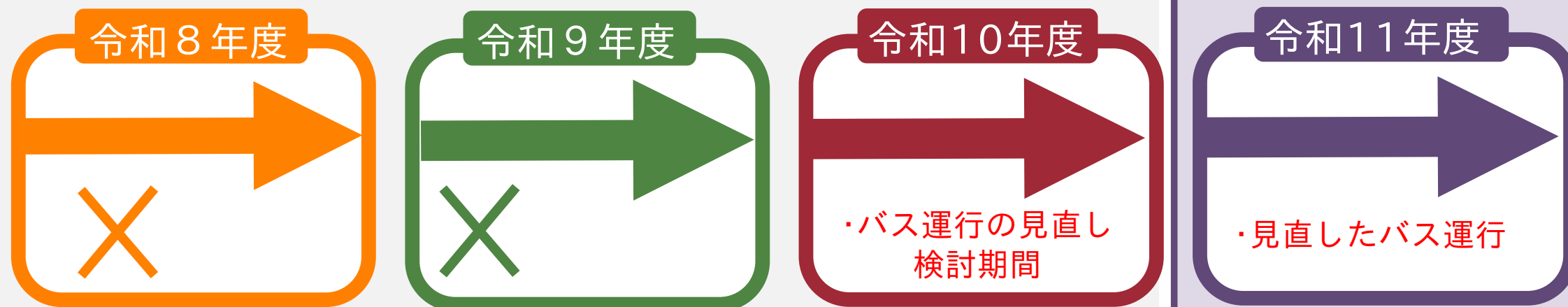
令和9年度

令和10年度

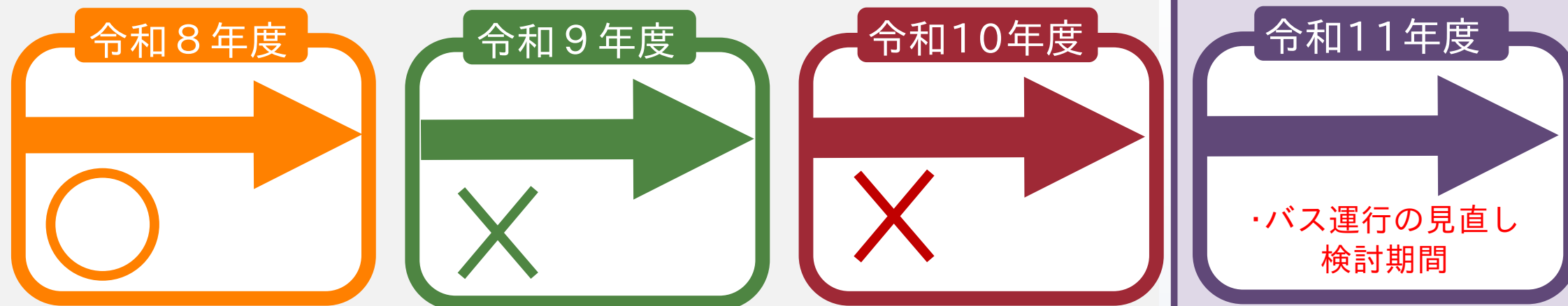
令和11年度

・現在のバス運行維持
【大和団地線】平日30便

2年連続目標未達成の場合



R8年度～R10年度は現在のバス運行を継続



目標達成・未達成が交互の場合



- ・ 2年連続で目標達成・未達成を確認するため、バス運行を1年延長する。
- ・ 継続の判断ができるまで1年ごとにバス運行を延長し、目標達成に向けて取り組む。

目標達成・未達成の判断基準について

持続可能なバス運行に向けて、実利用者数と収支差・社会情勢などを考慮しながら決定していきたい。

目標達成のパターン

$$\begin{array}{l} \text{実利用者数} \\ \text{達成} \end{array} + \begin{array}{l} \text{（赤字）} \\ \text{1,500万以内} \end{array} = \bigcirc$$

(目標運送収入達成) (経費の増加なし) (達成)

$$\begin{array}{l} \text{実利用者数} \\ \text{達成} \end{array} + \begin{array}{l} \text{（赤字）} \\ \text{1,500万超} \end{array} = \bigcirc$$

(目標運送収入達成) (経費の増加) (達成)

$$\begin{array}{l} \text{実利用者数} \\ \text{未達成} \end{array} + \begin{array}{l} \text{（赤字）} \\ \text{1,500万以内} \end{array} = \bigcirc$$

(目標運送収入未達成) (経費の減少) (達成)

目標未達成のパターン

$$\begin{array}{l} \text{実利用者数} \\ \text{未達成} \end{array} + \begin{array}{l} \text{（赤字）} \\ \text{1,500万超} \end{array} = \times$$

(目標運送収入未達成) (経費の増加) (未達成)

社会情勢なども踏まえ（目標）実利用者数の設定方法等について検討を行う。

持続可能な大和バスを実現するために

持続可能なバスを実現するためには、**市民生活、阪急バスの経営、市の財政**それぞれが持続可能なものとして成り立つことが重要です。

そのためには、関係者である地域住民、阪急バス、市がそれぞれの役割を認識し、協働で取組むことが必要です。

役割について

地域住民

- ・ **バスの維持に向けて、利用促進などに主体的に取り組む**
- ・ **バスの必要性を理解して積極的に利用する**

※令和8年度は、学識者による勉強会や現役世代も含めたワークショップの開催、利用促進に向けたイベントの開催などを検討中のため、積極的な参加をお願いしたい。

阪急バス

- ・ 持続可能なバス運営の提案
- ・ 運行経費抑制などの経営努力

川西市

- ・ バス運行補助 1,500万円
- ・ 利用促進など地域の主体的な取組を支援 50万円

